

PRAEVIDENTIA DAILY (2月18日)

昨日までの世界：ギリシャ問題解決への期待は消えず

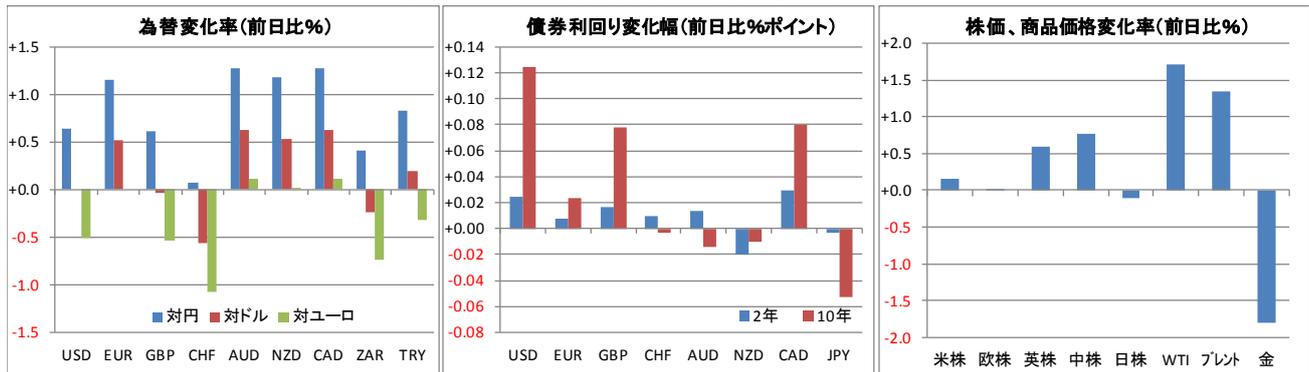
昨日は、ギリシャが18日にも最大6か月の融資延長を要請する、との欧州関係筋発言報道を受けて、ユーロが全般的に堅調に推移した。ドイツ ZEW 期待指数は 53.0 と前月の 48.4 を上回った一方、現況指数は 45.5 と前月の 22.4、市場予想の 30.0 を大きく上回り、ユーロ圏において少なくとも企業景況感が改善してきていることが示され、ユーロの支持要因になったようだ。

ドル/円相場は、ギリシャ問題解決への期待感から、米株価や米中長期債利回りが上昇したことから、ドル/円も 118 円台前半から一時 119.41 円へ上昇、クロス円相場も総じて上昇傾向となった（円安）。この間、NY 連銀製造業景況指数は 7.78 と前月の 9.95、市場予想の 8.5 を下回ったが、市場へのインパクトは限定的だった。

ポンドは、英 CPI が前年比+0.3%と前月から低下しゼロに近づいたものの市場予想通りに留まったことから、発表後に上昇する局面も見られたが、その後のユーロ高やドル高の方が強く、対ドルで横ばい、対ユーロではむしろ下落した。

カナダドルは原油高を受けて上昇、豪ドルや NZ ドルもつれ高となった。豪ドルは RBA2 月理事会議事要旨で、利下げを3月に先送りすることも議論されていたことが明らかとなり、発表後一時的に下落する局面もあったが、すぐに反発している。NZ ドルは世界乳製品取引（GDT）オークションで指数が前回比+10.1%上昇したことも支援材料となったが、発表後 NZ ドルは反落する局面もあった。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：英米タカ>日銀弱ハト>南アハト化？

きょうの注目通貨：USD/JPY↓、ZAR↓、GBP↑

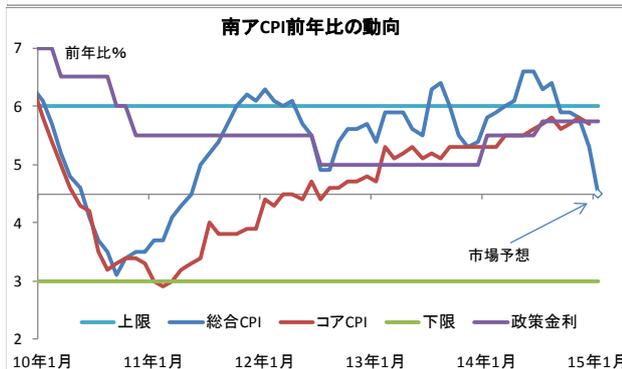
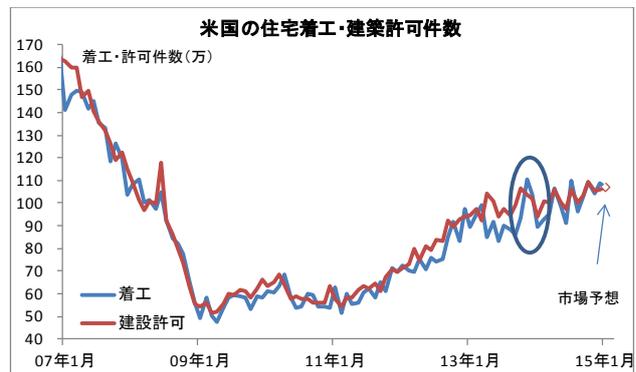
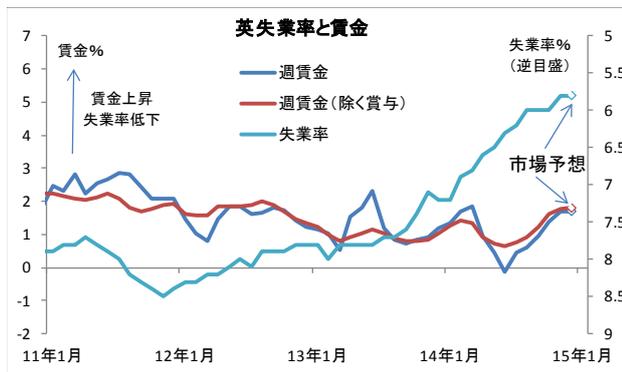
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
日銀金融政策決定会合	未定			15:30~総裁記者会見
南ア1月CPI前年比	17:00	+5.3%	+4.5%	中銀目標は+3.0-6.0%
英BoE議事要旨	18:30	全会一致	全会一致	利下げ主張があるか？
英12月失業率	18:30	5.8%	5.8%	
同週平均賃金・3か月前年比		+1.7%	+1.7%	15年BoE予想は+3.5%
同除くボーナス		+1.8%	+1.8%	
米1月住宅着工件数	22:30	109万件	107万件	
同建設許可件数		103万件	107万件	
米1月コアPPI前年比	22:30	+2.1%	+2.0%	
米1月鉱工業生産・前月比	23:15	-0.1%	+0.3%	
米FOMC議事要旨(1月27-28日開催分)	4:00			
Powell・FRB理事発言(金融安定関連)	7:00			中立、常に投票権あり

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

ドル/円を巡っては、日銀決定会合およびFOMC議事要旨が注目される。日銀の追加緩和期待が足許後退している中で、決定会合後の声明文における景気認識の上方修正、そして記者会見における黒田総裁の追加緩和に積極的ではないスタンス（2%達成の2016年度への後ずれ容認スタンス継続）などが示されると、ドル/円の下押しリスクとなる。FOMC議事要旨では、インフレ低下やドル高にも拘らず利上げに向けた姿勢が確認されればドル買いの一方、利上げの際に考慮するとされた海外要因（ギリシャ、日欧景気、中国景気など）に関する慎重な見方が示される場合にはドル売りとなるリスクもある。また、冬場の悪天候を受けて住宅指標も悪影響を受ける可能性がある。特に、昨年1月にもみられたように、許可件数よりも天候に左右され易いと言われる着工件数が悪天候で予想以上に悪化するリスクがあり、1月、2月指標は注目だ。

英国では労働市場関連指標とBoE議事要旨が発表される。失業率および週平均賃金（AWE）いずれも前月と同じ予想となっているが改善基調が続いており、またポンド/ドル相場が1月後半に1.50ドル割れへ下落した後反発基調となっていることもあり、上振れリスクを受けたポンド高に注意したい。BoE議事要旨では、既に四半期インフレ報告が発表され発表後にポンド高となったこともあり、議事要旨に追加情報があるか不明だが、インフレ低下でもハト派化しない姿勢が示されたり、先行きの景気・インフレ回復が強調されていたりすれば、こちらもポンド高要因となる。

南アでは原油安等を背景にCPIの急低下が予想されており、市場予想は前年比+4.5%と2011年5月以来はじめて南ア準銀（SARB）のインフレ目標（3-6%）の中心に回帰する見込みとなっている。コアインフレは6%弱とインフレ目標上限に近い状態が続いており、1月末のSARB金融政策決定でも利下げにはインフレ率の持続的な低下が必要とされたため、今回の予想通りのインフレ低下がすぐに利下げに繋がるかは今のところ明らかではないが、インフレ低下継続は明らかに先行きの利上げ期待を後退させ、利下げ期待を台頭させることになる。景気低迷にもかかわらず高インフレで高金利政策を維持せざるを得なかった南アにとってインフレ低下は利下げを通じた景気下支えを可能にし、必ずしもネガティブではないが、金利面から利下げ期待の高まりはランド安要因となりそうだ。



**ディスクレイマー**

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641